

令和元年度第3回北九州市子ども・子育て会議【会議要旨】

1 開催日時

令和元年11月7日（火） 18:30～20:30

2 開催場所

AIMビル3階 315会議室

3 出席委員数

※委員定数：15名

12名（香山委員、敷田委員、中村委員欠席）

4 議題

- (1) 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」【素案】に対するパブリックコメント
結果の報告について
- (2) 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」【成案】について
- (3) 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」評価方法について

5 会議経過

- (1) 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」【素案】に対するパブリックコメント
結果の報告について

【主な意見等】

- ・ 今回初めて、子ども向けの素案概要を作成し、子どもの意見の聴取に努めたということで、画期的だったのではないかと思う。子どものからの意見が6割と非常に多く、計画を策定するうえで、非常に重要である。まさに、子どもを主体とした取り組みとして、誇らしいと思う。
- ・ パブリックコメントの子ども用概要版を見た子どもたちは、こんなことがあっていること自体を知らなかったようだったが、「みんなが中心になって北九州市をつくる」という言葉にとっても反応がよかった。自分も力になることを何かしたいという言葉が出て、真面目に自分のことを考えているのだということ再認識した。
- ・ 自宅に持って帰って、親子で話をした子どももいた。親もプランのことや取り組みのことを知らなかったそうだが、まず子どもが動いて、子どもが知ったことで親が動けるというのも再認識した。
- ・ 子どもに対する回答について、分かり易い表現で書かれているものもあるが、ホームページに掲載する際は、ルビが欲しい。

(2)「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」【成案】について

【主な意見等】

- ・ 目標2「子どもや若者が健やかに成長し、主体性が育つまちをつくる」の修正については、「主体性」という言葉が分かりづらい。最終的な表現については、今回の意見を踏まえ検討し、会長・副会長・事務局に一任する。

- ・ 主体性というのは自ら育まれたら、主体性は既にあることになるので、主体性は環境要因だと思うので、「主体性が育つ」ではなくて、「主体性を育むことのできる」の方がよいと考える。
- ・ 主体性という言葉は使わないといけないのか。
- ・ 計画の視点である「子どもが主体であり…」の「主体」と「主体性」という言葉はニュアンスが全く違う。個に備わった属性が主体性なので、それを使い分けられなければ意味がない。
- ・ このプランは「子どもや若者が主体」であること、その主体である子どもたちが健やかに成長することが目的であり、生きるための力であるとか、能力であるとか、そういう力の中の 하나가「主体性」ということだと考えることができる。

(3)「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」評価方法について

【事務局説明】

- ・ 第2次計画の各施策の成果指標は、前年度に比べ、上がったか、下がったかとなっていて、指標によっては毎年度上下し、目標に対して達成できているのか評価しづらいという課題があった。そこで、第3次計画は、前年度比較ではなく、「基準値」に比べての評価を行いたい。その基準値の設定に関するたたき台は、資料7のとおり計画1年目の前の年の数値、「n-1年度」としている。ほかの基準値設定の考え方について、ご意見をいただきたい。
- ・ 第2次計画は、この成果指標と活動指標のマトリックス表を使って、機械的に総合評価を行っているが、第3次計画の総合評価の仕方については、もう少し時間をかけて検討し、改めてご報告したい。

【主な意見等】

- ・ これまでは、前年度を基準に、それからの変化ということで、ある意味非常にテクニカルにはやりやすいと。ただ、今度は基準値となる絶対的な基準を設定するにあたっては、今の段階で可能なのか、3年後もその基準でいいのかどうか、ある意味では、PDCAを回すときには、その基準値自体も見直すような必要性も出てくると思われる。
⇒（事務局）

そのとおりだと思う。こういった基準値の設定により、子どもプランの成果の評価が変わってくる。

基準値については、3年間の平均値を基準値としてはどうかというご意見もあった。いい方法だと思うが、今回3次計画で新たに作った指標もあるので、3年間の

数値というのがすぐには出てこないというところもある。

- ・ 平均値により基準値を設定することで、前年度の飛び抜けた数字に引っ張られない基準になると思う。一度過去3年間の平均値を取ったらそれが動かないということではなく、過去3年間の平均値を今年度の基準値とするので、毎年基準値が動いていくイメージで考えてはどうか。
- ・ 実際にデータのないもの、新規に始まったものというのは、これから蓄積の段階である。評価するためには、指標と数値目標が必要だと言われるが、数値になかなかなりづらいものもあるというのを、一方で考えておく必要があるのではないか。それが全て妥当的な数字なのかどうかということがあるので、数値で表せるもの、そうではないものという視点で、基準値に関しても考えてほしい。

⇒評価のやり方の具体的な話は事務局のほうで再度検討を行う。